

着付け職種技能検定 2級学科試験

令和元年6月11日（火）

一般社団法人全日本着付け技能センター

問題1. 時代と服装の関係について、下記の中から適当なものを1つずつ選び、記号を記入しなさい。

1. 訪問着

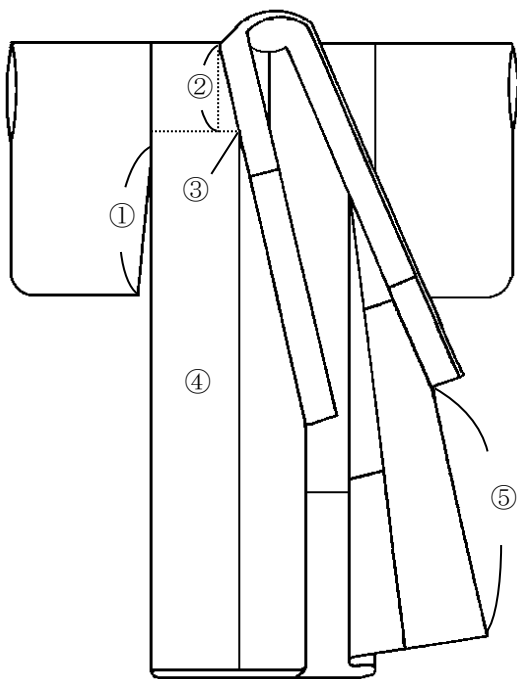
2. 友禅染

3. 十二単

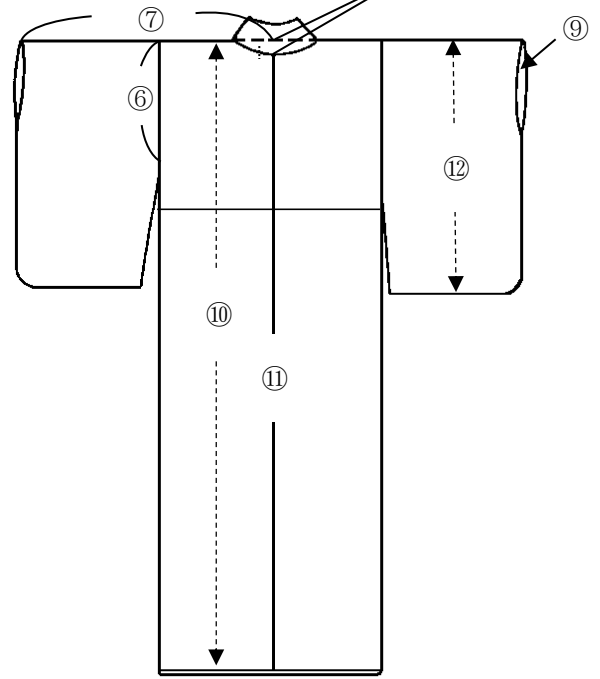
ア. 江戸時代 イ. 弥生時代 ウ. 平安時代 エ. 昭和時代 オ. 明治時代

問題2. 次の着物の各部位の名称について、それぞれの語群の中から適当なものを1つずつ選び、記号を記入しなさい。

I. 女物袷(前)



II. 女物袷(後)



[語 群 I]

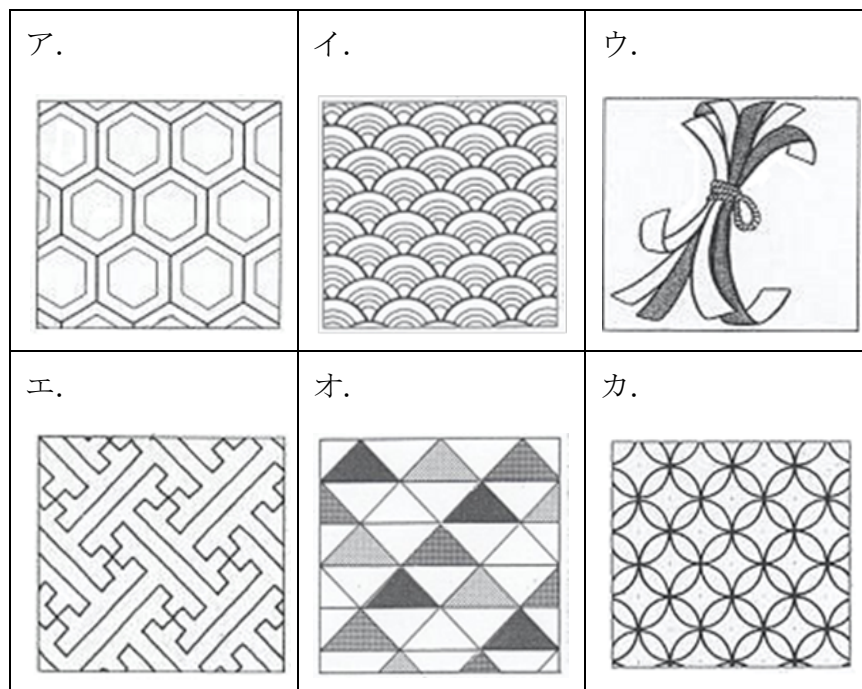
ア. 衿 イ. 抱幅 ウ. 身八つ口
 エ. 共衿(掛衿) オ. 衿下がり カ. 振り
 キ. 剣先 ク. 前身ごろ ケ. 衿下(襟下)

[語 群 II]

コ. 脇縫い サ. 袖付 シ. 袖丈
 ス. 袖口 セ. くり越し ソ. 背縫い
 タ. 後身ごろ チ. 衿 ツ. 身丈

問題3. 次の代表的な古典文様の名称について、下記の中から適当なものを1つずつ選び、記号を記入しなさい。

- | | | |
|-------|--------|--------|
| 1. 熨斗 | 2. 七宝 | 3. 鱗 |
| 4. 亀甲 | 5. 紗綾形 | 6. 青海波 |

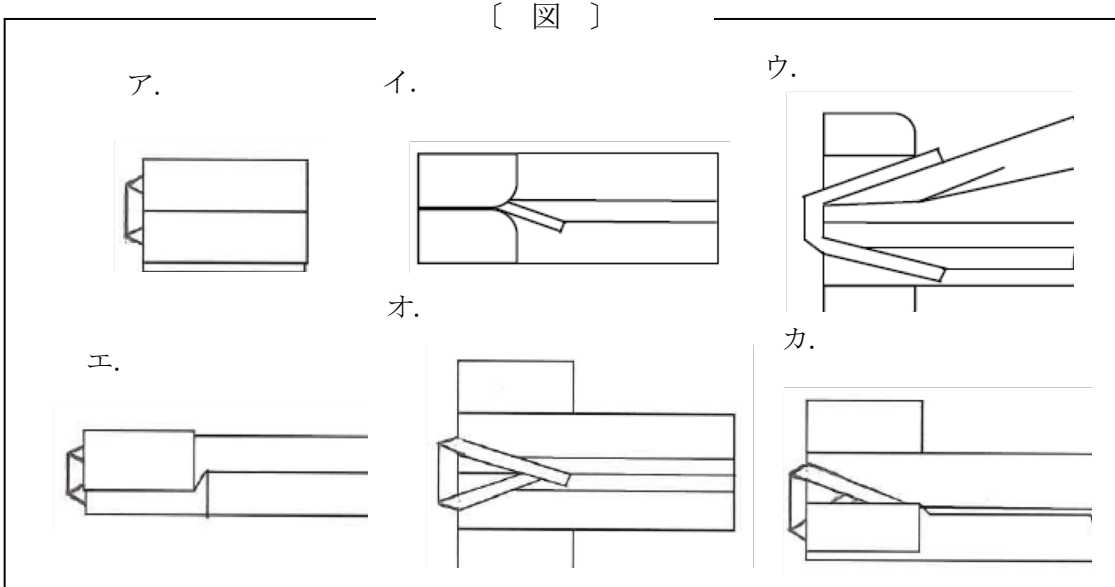


問題4. 下記の男物の着物の仕立てについて述べたものの中で、正しいものを3つ選び記号を記入しなさい。

- ア. 男物の着物はくり越しがなく、棒衿である。
- イ. 男物の着物には、身八つ口がない。
- ウ. 男物の着物は身丈である。
- エ. 男物の着物には人形があるが、振りがない。
- オ. 男物の着物の衿は、広衿である。

問題5. 長襦袢のたたみ方について、下記の図の中から必要なものを選び、正しい順序になるように並べて、記号を記入しなさい。

(1) → (2) → (3) → (4)



問題6. 次の説明文についてあてはまるものを下記の中から1つずつ選び、記号を記入しなさい。

1. 縮緬 2. 紬 3. 絹

ア. 玉繭、真綿、くず繭などを使用して織った、平織の絹織物。

イ. からみ織りの一種で透けるように織り上げたもの。夏は喪服、長襦袢、半衿、帯揚げ、帯などに用いられる。

ウ. たて糸に撚りのない生糸、よこ糸に撚りの強い生糸を用いて平織にしたのち、特殊な液体に入れて煮て精錬して仕上げた絹織物。「しぼ」という凹凸がある。

エ. 羽二重地の厚い絹織物。布面によこ畝が現れるのが特徴。

問題7. 下記の空欄にあてはまる染めの手法を選び、記号で記入しなさい。

1. 先染め
2. 後染め

ア. 縮緬 イ. 絹 ウ. 紬 エ. 紗

問題8. 着物の用途、格等に関する次の記述のうち、誤っているものを2つ選び、記号を記入しなさい。

- ア. 小紋に名古屋帯を合わせても礼装にはならない。
- イ. 上前の胸に柄があり、前身ごろと衽の柄がつながっているものを付下げ訪問着という。
- ウ. 紬の訪問着は、礼装になる。
- エ. 新郎の袴下の帯は、兵庫帯をする。
- オ. 留袖に合わせる帯は袋帯でもよい。

問題9. 次の文章のうち正しいものを1つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア. 三つ紋は背紋一つと後袖紋二つである。
- イ. 黒留袖の紋は、五つであれば縫紋でもよい。
- ウ. 三つ紋は背紋1つと抱き紋2つである。

問題10. 次の着物に適した帯を下記の中から選び、記号を記入しなさい。

- 1. 女物の大島紬
- 2. 訪問着
- 3. 男物の着物

ア. 染名古屋帯	イ. 袋帯	ウ. 角帯
----------	-------	-------

問題 11. 次の文章について最も適当なものを下記の中から1つずつ選び、その記号を記入しなさい。

1. 比翼衿を略したもので、着物の衿の下に重ねる。
2. 生地は塩瀬のものが一番格が高く、縮緬より上である。
3. 白、黒の丸ぐけのものは礼装用として用いられる。
4. 生地には絞り、無地物などがあり、装飾的な意味合いが強い。

ア. 帯揚げ	イ. 帯締め	ウ. 伊達衿	エ. 裾よけ	オ. 半衿
--------	--------	--------	--------	-------

問題 12. 次の着物と小物の合わせ方のうち、正しいものを2つ選び、記号を記入しなさい。

ア. 扇（黒骨金銀末広）	_____	男子紋服
イ. 帯揚げ（柄もの）	_____	色留袖（染め抜き五つ紋）
ウ. 帯揚げ（色物）	_____	訪問着
エ. たび（柄もの）	_____	中振袖（衿）
オ. 草履（黒のエナメル）	_____	喪服
カ. 帯締め（白の丸ぐけ、白組紐）	_____	黒留袖

問題 13. 次の着物の着用時季について、最も適当なものを、下記の中から1つずつ選び、記号を記入しなさい。

1. 10月から5月
2. 7月から8月
3. 6月と9月

ア. 訪問着の衿	イ. 紬の単	ウ. 紗の付下げ
----------	--------	----------

問題 14. 着物の着付けをするときの心得として、誤っているものを2つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア. 着付けをするさいのクリップや小物は、着物を傷めないためにも、代用品ではなく、着付け用を使用する。
- イ. お客様の状況や、その場にふさわしい身なりを心がける。
- ウ. お客様をお待たせしないために、お化粧をした後でも、手を洗わずにすぐに着付けに取り掛かる。
- エ. 着付けを始める前は丁寧に一礼をする。
- オ. 着付けをする時は、衣裳は衣裳箱に入れる。
- カ. ひも類は、首や肩にかけて作業をする。

問題 15. 次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- ア. 美容師でなければ、花嫁の結髪・化粧を業として行えない。
- イ. パーマネントウェーブ・結髪・化粧等の方法により容姿を美しくすることは、美容師でなければ業として行うことができない。
- ウ. 有料で着物を着付ける場合は、美容師免許がなければ行えない。
- エ. 美容師免許を取得すれば、全国どの都道府県でも美容を業として行うことができる。

全日本着付け技能センター
2級学科試験【模範解答】
令和元年6月11日(火)

受験番号	—
------	---

氏名	
----	--

問題1 (各2点)

1 エ	2 ア	3 ウ
-----	-----	-----

問題2 (各2点)

1 カ	2 オ	3 キ	4 ク	5 ケ	6 サ
7 チ	8 セ	9 ス	10 ツ	11 ソ	12 シ

問題3 (各1点)

1 ウ	2 カ	3 オ	4 ア	5 エ	6 イ
-----	-----	-----	-----	-----	-----

問題4 (各2点)

ア	イ	エ
---	---	---

※順不同

問題5 (各2点)

1 オ	2 カ	3 エ	4 ア
-----	-----	-----	-----

問題6 (各2点)

1 ウ	2 ア	3 イ
-----	-----	-----

問題7 (各2点)

1	ウ	エ	2	ア	イ
---	---	---	---	---	---

※1、2順不同

問題8 (各2点)

ウ	エ
---	---

※順不同

問題9 (2点)

ア

問題10 (各2点)

1 ア	2 イ	3 ウ
-----	-----	-----

問題11 (各2点)

1 ウ	2 オ	3 イ	4 ア
-----	-----	-----	-----

問題12 (各2点)

ウ	カ
---	---

※順不同

問題13 (各2点)

1 ア	2 ウ	3 イ
-----	-----	-----

問題14 (各2点)

ウ	カ
---	---

※順不同

問題15 (2点)

ウ
